

## ① 手洗いで感染症を防ぐ

② 人間の手指は有害な細菌の莫大な巣であり、感染症が発生・感染する「架け橋」となる原因の一つである。「麻疹や手足口病等の感染症に直面した場合、そのような感染症を予防・コントロールするため手洗いが非常に重要になってくる。」とダナン産婦人科・小児科病院の院長であるトラン・ディン・ビン医師は話した。

③ 適切なタイミングで正しく手洗いをするにより院内感染症の件数を半分に減らすことができる。

### 両手から感染症を無くす

感染症が大きな病院で発生しさらに拡大する時期、特に小児感染症患者の死亡率が上がってきていることは社会的にも懸念されている。ダナン産婦人科・小児科病院の研究によると、看護師の片手だけでも約38,000個の細菌が存在しているという。病院の医療スタッフの手指が最も重大な感染原因ということである。つまり、手洗いこそが院内感染を防ぐ「ワクチン」になる、という証明になる。

世界保健機関（WHO）によると、手洗いを徹底するという行為だけで世界の何百万人のうち死亡者数を35%も減らすことができるという。小児感染症患者を治療するダナン産婦人科・小児科病院では、「清潔な手」は治療成功への重要なポイントであるとしている。

ダナン産婦人科・小児科病院の看護部長グエン・ティ・タン・ホンさんは、「現在、当院では600以上の手指消毒液（洗面所等を除く）を設置している。医療従事者、患者とその家族が手指消毒液をいつでも使えるように、案内所や受付にも常備するよう心掛けている。」

また、手洗いのルールを院内スタッフに徹底させるため、ほぼ毎日、手洗い習慣チェックを実施している。具体的には、医師や看護師等の医療スタッフが患者に接する前、無菌操作を行なう時、また患者の環境整備をした後にきちんと手洗いをしたかどうか、観察している。それに加え、同病院では3ヶ月ごとに医師や看護師の手指から微生物をチェックし、手洗いができているかどうか、手に残った細菌の数と種類を確認している。

### ④最も重要且つ経済的な方法

トラン・ディン・ビン院長は、「手洗いは我々が出来る最も身近で大切なことである。」と話している。今年のはじめから現在に至って、ダナン市内において、麻疹は250件、水痘は1,000件以上、手足口病は300件が記録された。これら感染症の予防方法として、手洗いは最も簡単で経済的な方法でありながら、院内感染を抑え、感染症の爆発的増加を防ぐ最も効果的な方法として医療専門家にも評価されている。

ただし、見直しが必要な場面として、院内で患者とその家族のために設置されている手洗いボウルや洗面所がよく詰まり、故障する問題が挙げられている。ごみ箱があるにも関わらず、患者とその家族が残飯を洗面所に頻繁に捨てるのが原因ではないかとダナン産婦人科・小児科病院は考えている。総合計画部のヒュン・ティ・ビク・ゴック医師は、「当院では、ある国際組織の援助により、洗面所システムを修理し、新しく完備することを現在計画中である。」と話している。

記事・写真:トウ・ホア

⑤ダナン産婦人科・小児科病院院長トラン・ディン・ビン医師が手洗いをしている。(5月5日撮影)